

特許技術紹介シート

発明の名称 / 担当高専名

『画像表示制御装置および画像表示制御方法』 / 香川高専

発明者

特許番号

公開番号

登録日

出願日

重田 和弘

5252418

2009-169357

2013年4月26日

2008年1月21日

①技術の要約

情報案内端末やスマートフォンなどで表示されるアニメーションやスライドショーなどのマルチメディアコンテンツにおいて、ユーザが好む映像提示速度は、個人差が非常に大きい。本発明は、ユーザにとって見やすく心地よい速度をそのユーザの精神テンポを用いて推定し、アニメーションやスライドショー等の映像を適切な速度で自動的に提示する画像表示制御装置および画像表示制御方法に関するものである。ユーザの精神テンポは、その測定値をユーザ毎に保持・管理する手段を備えることにより、ユーザの精神テンポの値を再利用することができるため、最初に一度測定すれば良く、測定の手間を省略することができる。

②発明の効果

本発明により、アニメーション等を含むマルチメディアコンテンツの鑑賞に際して、ユーザがアニメーションの表示速度、テンポの調整操作を行うことなく、ユーザが嗜好する速度、テンポで表示することができる。これにより、ユーザ自身の操作で速度を調整するなどの手間を省くことができ、従来よりも快適にコンテンツを鑑賞することができる。

③キーワード

マルチメディアコンテンツ、精神テンポ、アニメーション、映像提示、ゲーム、学習教材、情報案内端末

ユーザにとって心地よい速度でアニメーション提示する

従来技術との比較・特徴

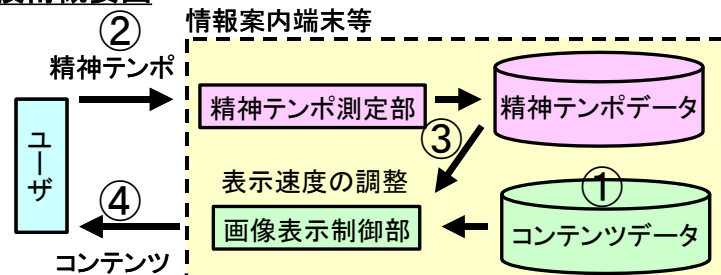
本技術を用いることにより、アニメーションを含むマルチメディアコンテンツの提示速度、テンポを、ユーザの精神テンポに基づいて、**ユーザ毎に心地よい速度で自動的に調節して提示**できるようになる。

	従来技術	本発明技術
提示速度の設定・変更方法	コンテンツ制作者またはユーザ自身が手動で設定	ユーザ毎に自動設定
速度決定に用いる情報	コンテンツ制作者またはユーザの主観、ユーザの性別、年齢など	ユーザの 精神テンポ
異なる複数のコンテンツへの対応	コンテンツ毎に個別に設定	異なるコンテンツにも自動で対応可能

精神テンポ:

日常生活の行動にはその人なりのテンポが推察され、話し方、歩き方などその人固有のテンポがあり、これを精神テンポという。打叩(タッピング)運動における一定時間当たりの打叩数、点滅光の心地よい点滅周期などが代表的な指標として知られている。

本特許の技術概要図



- ①精神テンポと各コンテンツの提示速度の関係をあらかじめ調べておき、コンテンツの表示時間を算出するための関係式や数値データを、コンテンツデータとあわせて保存しておく。
- ②ユーザの精神テンポ(打叩(タッピング)運動)における一定時間当たりの打叩数などを測定する。
- ③測定した精神テンポの値をシステム内に保存しておき、以降同じユーザに対しては保存した値を用いる。
- ④コンテンツを表示する際に、精神テンポの値に基づいて映像提示速度を調整する。

応用例・活用分野等

パーソナルコンピュータ、スマートフォン、タブレット端末等に下記のコンテンツを表示する際の表示制御に利用可能である。

①観光地、公共施設(博物館、美術館、学校)、企業等に設置する情報案内端末

②マルチメディア学習教材 ③ゲーム

④スライドショー、デジタルフォトフレーム

⑤ユーザとの対話性を持たせた映画、ドラマなどのビデオ映像

